

香物 小角

飯

煮物

串子 車多の 包ま子
くち栗 梅干し

二

香盤 炊箱

鉄線 山珠

小角

飽き

汁

鯛 せきり
油

切焼

味噌漬鯛

三

利形鯉

色有地紙 大子 子月
丸年毎

汁

唐入
片乳

二椀

厚巻 栞

一ツ焼

小鯛 かけ

肴

長サ飯ま

くま焼 塩山休

吸物

スリミ 花念心

附後炊

酢和

ササギ 大いん

浮鼓

香物 小皿

茶菓子

脱子 長も

後菓子

枝押

くま

一 柳之間 少科 尺之 八葉 軍人 着茶

大洲子 斗と 雨と 奉

陸奥津物 飯 津浦 山と 見ん 草と

瀨小ぶりーくそモウーと斗の多志きり小夢ゆ
ふい何るあふんと思まこと入る於斗これと野所
小く瀨小放ー異所小一丈り斗砂原小糸と嚙めり
眠り居ー臥沖りり梢子寄りまうりー其斗と海一
申出んとんそ河りさゆハ先ハ梢の形の思ふに天窓一を
スチ湯袋ー風と入りぬくらーたるといひんや
まじいゆ反無衣と骨と法り風小向ひーとく
あ服を指小淺と入る有るは危薄葉ハ巾の長くと
大船の大繩と合さるりり疑りる斗の谷中一長き
たふめ長いながさるりかぶたと巻く例のいふて

むつとらとすむつと強りおむのえき小ハ大晴中たこ
幾つとたー弄まうりー思ふ思小修くとくさうりろ
とくはかーなつとまー海原一川入る体あり
申小斗目さるりさきりほうめけだたこハ雲小其
流りー大服むとむさかーく巧人の二巾の思小く
ちりーハハあさふの思いーとせそ内三巾の思小い
数百の梢まうりーかーハ有川之斗一をさかまうり
はあれとと中ーけむひ短くせ思くさうかのれと
三四十間さみわりー始終を思指さうり時小獵師百姓
高人のたけもろく道と其巡り小集集さうり

晴既し波中ふ嬉くよほまかるり既小浪歩際
道牛と川を時り大牛一身の刀と足くうこト
一多え比ふむりーとくふとくーう若き濱の砂地
踏込りりいさきと見えい股の深まう入るおま
大牛頭とと振うと見えーう間の角やう大猪
の頬の河うり目の深まうーつと若きまういかに
猪子も多まううまかーやうい見えー一残ま
牛一振ゆりうたふの大き振えとつふぬき振切た
り中まう四五人の大猪牛の脊小のやうま
二三丈の猪牛の跡はわらうかうい一若れ大猪を

かーまうりうーう残りの大猪走まううう濱が一西
猪子のゆまに砂地も見え思くうひまう子中ふ深
ろ人々色く切拍持まきとも其側いかにいさうう海
うう小若見えくはうに長う大牛た右のよい松う根
う節のうに人物色の塩金松とーうーささいふいさ
とー眼いまうまううううう血をきういうう若悪魔も
迎ふまやうまう見えーうか大い若きげうとーう腕
い礼見い思やう小河の繩ゆる巻きを腹と右のうと
足いつううまういさふー大牛の側近くおれを
猪子とも思うう其人とまううんまひつうんとさ

若来りと磨とま——たる大虎——と抄切たたと
も——いたま——ひきまうん——とこいれい種あう——急はに
えすす内小時三十一足おなごち——切あせを叶りに
皆海へあ入るく大時いよ——怒り急小大牛にん
とすと世男もや——世い——う牛をかひや
大とゆら——も小つあ跡——切放せしかの大時と
牛の角小——いよあおれい大小はり——いひ
のそと切落しれ——も叶——とやあひらん終よ
来れ大浪おるみ——うぬ大時子も荒疎と——う
あう海とあき泳始うめん——逃いよ——う——残りの

時子ともい——中小うせぬ大牛いかにき命と
胸ア大時近つき牛を倒——むきう——泊り平浪も大
時子いひのそと中——一人づい指事——う叶急入る籠の
中へ縄綱か——と入る——持くる我もあまうあ
る——中へ中夜に時^本のそい長きそよそ人提——切
あ人寺はあう——やうきあいあ人をいき人寺——一本のそ
大くう大時小ニ之杯り中——十人九人あう——
けいひい食終るま——いひり——大あ時
け三千年の内小牛のそ一丈並の牛一丈赫合か大
時あう——時子小——と終——う——

